

パブリックコメント意見対応表

No.	意見の内容	回答
1	<p>かきどまり総合運動公園内に集会・休憩・宿泊施設を建設する。</p> <p>交通の便にやや難があると思われますが、広い駐車スペースを持ち、全国規模の協議開催実績がある同施設は、多くの市民が利用しているスポーツ施設です。ここに、県外から大会や合宿等で何度も訪れていただきたいものです。(素案5P 訪問客がより長く、何度も訪れたくなるまち)そこで、集会・休憩・宿泊施設を建設し、同施設での賑わいが創出できると考えます。</p> <p>(1)集会 ①スポーツ関連の研修を行う。 ②各競技のミーティングに利用する。</p> <p>(2)休憩 ①同施設の利用者の休憩場所とする。 近年の温暖化における「クーリング施設」として ②シャワー施設(有料)を完備する。</p> <p>(3)宿泊1 ①遠方から訪れる方々を増やす。 ②施設は2階建て。 1階…会議室、シャワー室、談話室、調理室、ランドリー施設 2階…宿泊室</p> <p>(4)宿泊2 ①調理室は、宿泊以外でも利用できるようにする。「スポーツと栄養(仮称)」と題し、調理の講習会に活用する。 ②宿泊者は、基本的に「自炊」とし、利用後の清掃・整備に務めていただく。</p>	<p>かきどまり総合運動公園は、多くのスポーツ大会が開催され、市内外から幅広い利用があることを認識しております。</p> <p>宿泊施設の整備については、民間事業者に任せる分野として捉えており、長崎市で建設する予定はありませんが、スポーツ大会における宿泊ニーズを踏まえ、今後とも、大会主催者や関連団体及び宿泊事業者と連携し、宿泊需要の円滑な受け入れが進むよう取り組んでまいります。</p>
2	<p>スタジアムシティとロープウェイ(淵町)を結ぶ橋の建設</p> <p>令和6年10月に「長崎スタジアムシティ」が誕生し、長崎の新しいランドマークとなりました。サッカーの試合では、毎試合約1万5千人、バスケットボールでは5千人を超える集客があり、その数は、同規模の県営野球場(ビッグN)や県営総合運動公園(トランスクスモススタジアム)の比ではありません。1千億円(?)を投じて建設していただいたジャバネットホールディングスには感謝の一言です。</p> <p>しかしながら、ジャバネットホールディングスから要望があった、スタジアムシティへのロープウェイの延伸は諸事情により見送られることとなりました。このことは、予算や安全面等から十分理解できることですが、その代替案として上記橋の建設を提案します。</p> <p>(1)経路 スタジアムシティから浦上川を越え、三菱重工業総合体育館内敷地を通り、現在の渕神社下までを結ぶ。※三菱重工業の協力が必要。</p> <p>(2)賑わい ①歩行者専用とし、スタジアムシティから人の流れを促す。(自転車やスケボーは禁止) ②浦上川上の部分は、広めの道幅をとり、ガレージセール、キッチンカーまつり、各種催し物が閲覧可能。※特別の場合のみ、車両進入路が必要。 ③浦上川では、長崎西高や民間のカヌークラブの協力を得て、ウォータースポーツ体験を開催する。※サップやアヒロのボートの体験 (素案5P 市民が誇りをもって観光まちづくりに関わるまち)</p>	<p>交通動線など総合的に勘案した結果、現在は稻佐橋ルートを来訪者動線の基本とする方向で整理しております。</p>
3	<p>鉄道高架下の活用</p> <p>新幹線建設等に伴い、長崎市内の鉄道(JR)が高架化しました。しかしながら高架下の活用が今一つです。</p> <p>(1)駐車スペースとする。 (2)各種催し場所とする。 (3)災害時には、避難・復旧の拠点とする。 (素案5P 危機や変化に強くしなやかに対応するまち)</p>	<p>鉄道高架下については、JRが所有、管理しており、その一部を行政(県・市)において、観光案内所や二輪車等駐車場、資材置き場、ポンプ施設、スタジアムシティ前広場として使用させて頂いているところです。今後もJR、関係部署と連携し、観光施策との整合を図りながら検討を進めてまいります。</p>
4	<p>素案内にて「ここにしかない価値」が強調して書かれているが、素案最初あたり(4ページ目)は再開発によって新たに生まれるのが「ここにしかない価値」のように書かれ、方針を説明した部分(38ページ)では東山手あたりの歴史が「ここにしかない価値」のように書かれているため、一貫性がないようにとれる。</p>	<p>ご指摘の「ここにしかない価値」といたしましては、一つだけに留まらず、長崎市にしかない価値として100年に一度のまちの再開発に伴って生まれた新たな魅力や、洋館など歴史文化遺産、地域性を活かした固有の観光コンテンツなどを想定しており、箇所に応じて記載内容が異なります。</p>
5	<p>長崎ならではの価値が歴史文化にあることには同意するが、実際東山手の方は洋館群のみ、のような守られ方、活用のされ方をされており、目の前に高層マンションが出来ることで景観を崩したり、洋館群が見えなくなることを招いたりしているなど、長崎ならではの価値を本当に守ろう、産もうとしているように見えない開発がなされている。そのため、方針としては洋館活用などだけにとどまらず、よりしっかりととしたエリアとしての歴史文化・景観を守ることを大切にしていくこともいれるべきだと考える。</p>	<p>ご指摘を踏まえ素案P37「基本方針A 滞在価値の最大化と魅力発信」の説明文を保全の要素を加え、一部修正いたします。</p> <p>なお、長崎市では、景観への配慮については重要な視点と認識しており、景観計画に基づき東山手・南山手地区、平和公園地区など7地区を景観形成重点地区と定め、事前協議等において助言、指導を行っています。</p> <p>今後も歴史文化資源の価値を守りながら活用する取組を進めるとともに、洋館群を始めとした観光資源の有効活用にも努めてまいります。</p>

パブリックコメント意見対応表

No.	意見の内容	回答
6	素案内の問題・課題導出に関して、定量的なデータがほとんど使われているが、定性的なデータはほぼない。そのため、十分な問題・課題の分析になっているように見えず、現実に即した方針があげられていると言いかねない。すべての観光客の定性的な意見を集めるのは難しいが、今後、観光客から定性的なデータを集められるよう、調査のやりかたを考え直すべきだと考える。	計画の成果を図るため定量的な指標を中心に設定しておりますが、定性的な評価についても重要であると認識しており、KPIにおいて訪問客、市民や事業者の満足度を設定しており、それぞれアンケートや動向調査を行っております。
7	景観について 多様な物語をがはぐくまれるような景観計画をしているようには思えない。例えば中華街のような中華の文化を体験できるような場所はあるが、一歩そこからでてしまえば、一気に現実に引き戻されるような感覚になる。周りの景観が合わせられているようには思えない。	長崎市では、景観への配慮については重要な視点と認識しており、景観計画に基づき館内・新地地区、東山手・南山手地区など7地区を景観形成重点地区と定め、事前協議等において助言、指導を行っています。今後も歴史文化資源の価値を守りながら活用する取組を進めます。
8	P25 ストーリー性・テーマ性に富んだとありますが、どのようなストーリーやテーマを提供するのでしょうか？イメージがわからぬため詳しく教えていただきたいです。	本項目は現行の観光MICE戦略(2021～2025)の振り返りになり、一例といたしまして長崎の居留地の歴史に焦点をあてたグラバー園、大浦天主堂を巡るコースの提供などを行っています。
9	P27 交通アクセスを充実させるだけでなく、規制を行うことで観光客に歩いてもらい長崎の街並みをじっくり知ってもらうような政策を打ってみてもいいのかと思う。	素案P33のSWOT分析表のとおり、長崎市の弱みとして二次交通の利用難易度の高さが挙げられているとともに、観光客のニーズも高い項目となっております。このため、まずは交通アクセスの充実に取り組んでまいります。併せて長崎さるくなどのまち歩きコンテンツについても、引き続き取り組んでまいります。
10	P28 基本政策C-1の主な取り組みの改行がおかしい	ご指摘を踏まえ修正いたします。
11	P29 DMOを中心とした観光まちづくりの推進体制の充実を図ることで、シビックプライドの醸成が進むのでしょうか？根拠を教えてほしい。	本項目は現行の観光MICE戦略(2021～2025)の振り返りになり、課題「観光産業の担い手不足」に対応する今後の方向性としてシビックプライドの更なる醸成が必要と整理しております。 具体的な取り組みといたしましては、素案P43以降に記載の基本方針C「市民参加と地域愛の醸成」の基本施策の中で、観光イベント等への参加、市民ガイドの活動促進、観光教育の拡充などをしていく予定としております。
12	P33 歴史や文化が生み出しているのは多様な食文化だけのか？体験や交流などは含まれないのか。	歴史や文化が生み出しているものには、多様な食文化に限らず、ご指摘の体験や交流も含まれております。 食に関しては、訪問客のニーズも年々高まっており、そうした状況を踏まえてSWOT分析における長崎の強みの一つとして、食について記載しており、食のみに限定されるという趣旨ではありません。
13	p.5 1の訪問客が何度も訪れたくなるまちの中にある、「快適な環境」とは何なのか。快適な環境があれば長崎の魅力を満喫できるのでしょうか。 3では、「市民が地元の魅力に満足し～」の表現が正しいのか疑問です。長崎に魅力はあるけど地元の人が満足していない状態というのは、魅力に気付いていないとも言い表せるのではないのでしょうか。	快適な環境とは、素案P47に記載の今後の取組みのとおり、宿泊施設やトイレの充実、アクセス環境の向上を想定しています。これらの項目は訪問客のニーズが高いものであり、取組みが進むことで、訪問客の満足度が高まると考えています。 また、「市民が地元の魅力に満足し～」の表現につきましては、素案P31に記載のとおり観光に関する市民満足度が低下傾向にあることから、これを踏まえた表現としていましたが、より伝わりやすい表現に見直します。

パブリックコメント意見対応表

No.	意見の内容	回答
14	p.27 ・質の高い英語ガイドの不足とありますが、本当にそれに外国人が困っているのか疑問。長崎という地にある地元のお店などで、ただ音声ガイドを聞かせればいいわけではなく、外国人はきっとその人のコミュニケーションに魅力を感じているのではないのでしょうか。	クルーズ船の増加などの影響により外国人旅行者が増加する中で、長崎市への経済効果を高められるよう、外国人訪問客のまちなかへの回遊促進に取り組む必要があると考えております。 そうした中で、ご指摘のとおり外国人訪問客については、地元の人とのコミュニケーションや体験コンテンツなどのニーズが高く、それらに対応できる質の高い英語ガイドが不足しているとの課題認識を持っています。 なお、こうしたニーズに対応するため、現在、DMOにおいて、英語ガイド「NagasakiCrew」の育成などの取組みを行っております。
15	p.28 課題の中にある、広域での周遊ルートの造成や広域的なプロモーションのさらなる推進では、スタジアムシティやアミュなどどこの県にもありそうなものをルートに入れるより、より長崎の地域性が見える商店街や坂道の多いところも広域にするのであればいってほしい。 →もう少し観光として何を望んでいるのか耳を傾ける必要を感じた。	素案P28の広域での取り組みについては、長崎市に留まらないより広域の取組みを記載しています。一例としまして、素案P28に記載の西のゴールデンルート・アライアンスでは、インバウンド需要が回復する中で、滞在期間の長い欧米豪の観光客を大阪より西の西日本へ呼び込むことを目的として行っている取組みです。 また、地域性が見える取り組みとしては、基本施策A-1「長崎ならではの体験価値の提供」において、まち歩きコンテンツも引き続き取り組んでまいります
16	p.29 今後の方向性の中に、「シビックプライドの更なる醸成」とあるが、方向性を示すのであればもう少しどういったことを考えているのか記述してあるとより全体像を把握しやすい。	本項目は現行の観光MICE戦略(2021~2025)の振り返りになり、課題「観光産業の担い手不足」に対応する今後の方向性としてシビックプライドの更なる醸成が必要と整理しております。 具体的な取り組みといたしましては、素案P43以降に記載の基本方針C「市民参加と地域愛の醸成」の基本施策の中で、観光イベント等への参加、市民ガイドの活動促進、観光教育の拡充などを行っていく予定としております。
17	p.40 『交流の産業化』による「人を呼んで栄えるまち」の実現には、DMOの旗振りのもと、多様な関係者が観光まちづくりに参画し、～』とあるが、多様な関係者とはどういった人たちのことをさすのでしょうか。 →人口減少が叫ばれる中で、もちろん市民にも協力を仰ぐ必要があると思いますが、その市民とはどういった関係を結んでいくのか気になる。	多様な関係者とは地域内の事業者、行政、地域住民など観光に関わるすべての人を想定しています。 また、人口減少が進む中で、持続可能な観光を実現するためには、市民の皆様の理解や協力が不可欠であると考えております。 素案P5に記載のとおり訪問客だけでなく、地元の事業者や市民の皆様も含めWin-Winとなるような関係づくりとなるよう市民の皆様の意見を聞きながら進めてまいります。
18	p.43 地元の誇りとなる文化や歴史への理解を深める教育的取り組みとして、「観光イベントや伝統行事への参加を促すこと」が書かれているが、ただ促しても市民が来るとは思えない。お金を配る方法で考えているなら、それは長期的なものではないため、ちゃんと長期を見据えた取組であつてほしい。 →市民ですら来ないものに観光として外国人などを呼べるのかと単純な疑問が残る。	地元の誇りとなる文化や歴史への理解を深める取り組みとしては、まずは市民の皆様に地元のイベントや歴史等に興味を持っていただく必要があると考えております。このことから、素案P43に記載の観光イベント等への参加については、ニーズに対応した情報発信や、ボランティア等の市民が参画できる仕組みづくりを想定しています。
19	p.44 観光イベントや伝統行事への参加や体験を促すためには、その地域の人たち自らに立ち上がらせる必要があると思う。外的に促してもそれは、その人たちのためにもならないので、よりその愛着とかを持つてもらうためにも、持続していく策が必要だと感じた。	市民の皆様に観光イベントや伝統行事へ参加していただくことをきっかけとして、観光への関わりを深めてもらい、地域への愛着を深めていただきたいと考えています。 これらの取組みを通じて、持続可能な観光の実現を図ってまいります。
20	p.45 長崎出身ではない人や学生と意見を交換する機会が必要だと考える。自分の地元のものを外の人に伝えるからこそ、知れる良さもあるのでは?と感じた。	市民の皆様が地元の良さを再発見する機会の創出といたしましては、観光イベントや伝統行事へ参加していただくことをきっかけとして、観光への関わりを深めてもらうことが必要と考えており、参加する中で様々な人との交流の場を持つこととなり、意見交換する機会の場としてもなり得るものと考えています。 そのため、今後市民が観光イベント等に参画できるようニーズに対応した情報発信や、ボランティア等の市民が参画できる仕組みづくりを想定しています。